

京都芸術センター主催「明倫茶会」開催事例

明倫茶会『盆栽と林檎の茶會』

席主：川崎仁美（盆栽研究家）

平成31年2月17日（日）

待合：ミーティングルーム2

本席：講堂

内容：日本茶とタルトタタン

空間デザイン：菅林麻弓

光が透けるほどの薄い布を用いて、盆栽を天井から吊って鑑賞するというダイナミックなしつらいをお楽しみいただきました。

日本茶は、盆栽と結びつきの強かった文人文化に因んで、中国式の作法で振る舞われました。盆栽と同じく季節や環境に応じて表情を変える林檎のタルトを召し上がっていただきました。



京都市芸術文化協会創立35周年記念事業

京の文化絵巻II

The tea ~ 明倫茶会

席主：茂山あきら（狂言師）

平成28年1月21日（土）

本席：大広間

内容：番茶と漬物

映像：瑞田好孝 幕絵原画：山本太郎（日本画）

落語：桂米二

京都市芸術文化協会創立35周年記念事業の一環として、狂言師の茂山あきらさんによる一席を催しました。

すぐきと番茶のくつろいだ味わいととも、古今東西の「笑い」を集めた映像・音声や、桂米二さんによる落語をお楽しみいただきました。番頭に扮した席主に最後まで気付かない方もいらっしゃいまして、狂言師ならではのおかしみあふれる茶会となりました。



明倫茶会

『泉翁忌—デュシャンに捧げる茶会にして展覧会（のようなもの）』

席主：小崎哲哉（ジャーナリスト／アートプロデューサー）

平成30年12月23日（日）

待合：ミーティングルーム2

本席：和室「明倫」

内容：ローズティーとお苧麻

茶の湯の「見立て」や「しつらい」を現代アートの手法に重ね合わせながら、小崎さんのお話を楽しみました。

現代アートの父とも呼ばれるマルセル・デュシャンに因んだ品々が並べられ、遊び心や想像力を刺激する一席となりました。



夏休み企画展×明倫茶会

↑↓（いったりきたり）

席主：岩崎貴宏（美術家）、久門剛史（美術家）

平成28年8月21日（日）

待合：ギャラリー北

本席：和室「明倫」

内容：甘酒とお菓子

植物：西山隼人（「みたて」店主）

夏休み企画展「感覚の遊び場」の関連企画として開催。久門さんのインスタレーション空間のなかで、岩崎さんのプロデュースによる甘酒とお菓子が振る舞われました。夏らしく爽やかな、またどこか懐かしい味わいととも、気鋭の現代作家ふたりによる「感覚」についてのお話をお楽しみいただきました。

